



令和5年度 学校だより 11月号

なかお



第450号

令和5年10月24日

発行者 横浜市立中尾小学校

校長 廣瀬 ユミ

<https://www.educity.yokohama.lg.jp/school/es/nakao/>

## 学びの多様性 ～道志村水源涵養林見学より～

副校長 早坂 考史

10月19・20日の2日間で本校の4・5年生が愛川宿泊体験学習に出かけました。バスを利用する機会を最大限活かすため、愛川地方に留まらず少し遠方まで足を延ばし、それぞれ4年生は山梨県道志村にて水源涵養林についての学習、5年生は小田原市にてかまぼこづくり体験を取り入れました。

私は、4年生と一緒に行動したので道志村に行きました。「なぜわざわざ山梨県へ行くの?」と思う方もいるかもしれませんが、実はこの山梨県の道志村は、横浜市とは切っても切れない縁なのです。横浜市が日本で初めて上水道が設備された街であることは有名な話だと思いますが、その水の主な供給源が道志村なのは意外と知られていません。明治30(1897)年に道志川からの取水が始まり、横浜にきれいな水が来るようになりました。当時の横浜港へ出入りしていた世界中の船乗りたちが、「横浜の水は赤道を超えても腐らない水だ」と絶賛したという逸話が残っています。

また当たり前ですが、きれいで安全な水の提供には、その水を生み出す水源林の整備も不可欠です。大正5(1916)年には横浜市が道志村の有林を水源涵養林として運用し始め、平成16(2004)年には「横浜市と道志村の友好・交流に関する協定」が締結されています。現在でも、横浜市水道局の職員の方が道志村でも働いていますし、道志村の民宿やキャンプ場は横浜市民に対して割引制度があるなど両街の密接な関係が続いています。

4年生の社会科では、人々の健康や生活環境を支える事業に関する内容の一つとして飲料水を扱いますが、自分たちが普段飲む水のルーツを知ったり、そこに携わる人の営みに直接触れたりすることはとても意味のある学びになります。まさに学びの多様性です。これからも教科書からだけでは学べない「生きた材」で子どもたちの心に残る学習を実施していきたいと思えます。